

## 年間第3主日(神のことばの主日)(ルカ 1:1-4;4:14-21)

神のことばに込められた思いに触れる聖年



残念ながら、司祭団マラソン大会は辞退することにしました。母親が同じ日、マラソン大会に乗り込んでくる上五島の司祭たちと同じ船の便で福江にやって来ます。一泊二日で親孝行することを優先しました。弁明しますが、堂崎からのコースに申し込み、時速6キロくらいで完走するつもりでした。時速6キロは、1分間で100メートル進む速さです。

「一を聞いて十を知る」という言葉があります。「非常に賢くて理解がはやい」そういうたとえです。理解する側に力点を置いている説明ですが、語られた言葉に力点を置いて考えるとどうでしょうか。

たとえば、中田神父が話している言葉は、一つ話すたびに一つ伝わる、そのような言葉です。「1分間で100メートル進む速さです」これを聞いた人が、そこから幾つものことを学ぶわけではありません。

たまに、一つの言葉に二つの意味が込められていることもあります。しかしそれに気付く人は、何十人に一人かも知れません。付き合いが長い人は、もう少し気付くようになるかも知れません。しかしそれでも、一つの言葉に二つの意味が込められているに過ぎません。本当に優れた言葉は、一つの言葉に多くの意味が込められ、どれだけ味わっても汲み尽くせないのではないのでしょうか。

まさに、イエスが語られる神のことばがそうでした。会堂で、預言者イザヤの巻物が渡され、それを読み終えてからこう話されました。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」(4・21)。イエスが語られた言葉一つ一つには、いったいどれだけの意味と思いが込められていることでしょうか。私たちが何度読み味わったとしても、語られたイエスのことばの意味を汲み尽くすことができません。

幾つか、語られたイエスのことばから、込められた意味を汲み取りたいと思います。中田神父は、御父と御子、聖霊の思いが込められていると考えます。御父は、イエスの宣言を聞いた人が御子を信じるように期待しています。御子イエスは、解放と恵みの年を告げるために責任を持つと表明しました。聖霊は、イエスの宣言が真実であることを理解させてくださいます。

しかしなぜ、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と言い切ることができるのでしょうか。「この人はヨセフの子ではないか」と、疑いの目で見ている人もいたのです。「実現した」と言われるからには、すべての人に当てはまるのでなければなりません。疑いを持ち、朗読された物語の最後に町が建っている山の崖からイエスを突き落とそうとした人々にまでも、どのように聖書の言葉は実現するのでしょうか。

それは、「ゆるし」によって実現しました。イエスは「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話す中に、解放と恵みの年の宣言だけでなく、ゆるしの意味も込められていたことに

全能の神よ、聖なる福音をふさわしく告げるため、わたしの心と口を清めてください。

なります。神のことばは、一つのことばの中に、幾つもの意味が込められていて、汲み尽くせない泉のようなのです。

今年が聖年です。地区の中で指定された教会を訪ねることで、免償の恵みを受けることができます。入口に置かれた巡礼スタンプ帳の終わりの方のページには免償の受け方が分かりやすく書かれています。どうぞ、機会を逃すことのないよう、指定教会を訪ねてください。

罪から完全に離れるとの意向を持って巡礼指定教会を訪ね、同じ頃にゆるしの秘跡を受け、聖体拝領をし、教皇様の意向にしたがって主の祈り・アヴェマリアの祈り・使徒信条を唱えるなら、全免償が与えられます。今、あなたは全免償が必要でないかも知れません。そうであればあなたが受けるはずの全免償を、死者のために譲ってあげてください。

「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した。」神のことばは今日も多くの人に多くの思いを伝えようとしています。神の思いに、一つでもよいから触れるための聖年となりますように。

主の奉献(ルカ 2:22-40)

福音のことばによって、わたしたちが罪から清められますように。